

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年2月26日

新型コロナワクチンが不妊をもたらすという誤情報（フェイク情報）の影響

【松崎雑感】

「ワクチンデマ」に関するJAMAの反論論説です。

ワクチンで不妊になるというフェイクニュースについては、スライド6, 7枚目をご覧ください。[緑字アンダーライン部](#)もクリックして、一次データにアクセスして、それがどうなのかをお考えいただければ幸いです。

ややこしくて、精力の必要な作業ですが、私はできるだけ元論文を読んで、解釈をすることを心がけています。

新型コロナワクチンが不妊をもたらすという誤情報（フェイク情報）の影響

Abbasi J. **Widespread Misinformation About Infertility Continues to Create COVID-19 Vaccine Hesitancy.** **JAMA.** 2022 Feb 22. doi: 10.1001/jama.2022.2404. Epub ahead of print. PMID: 35191947.

昨年1月、ニューヨークタイムズに、新型コロナワクチンエール大学の医学博士候補のアリス・ルー・カリガン氏とその指導担当、免疫学者のアキコ・イワサキ博士が、新型コロナワクチンに関する根拠のないうわさ話に対する反論を投稿した。

SNSを通じて拡散されていたフェイクニュースとは、mRNAワクチン接種によって作り出された新型コロナウイルススパイク蛋白に対する抗体が、胎盤のsyncytin-1というタンパク質を攻撃して、不妊をもたらすというものである。

この言説を証明するデータもないことはもちろんだが、理論的に考えて極めてありそうもないとルー・カリガン氏は本誌のインタビューに答えている。

彼女は、この言説が極めて陰険であると指摘した。もし新型コロナウイルスのスパイク蛋白が不妊をもたらすなら、新型コロナウイルスへの自然感染自体もまた不妊を大きく増やすはずであるが、そのような主張をする者は誰もいないと。

この言説を検証した結果、彼女とイワサキ氏は、ワクチンが不妊をもたらすという言説がまったく誤っていると結論付けた。

最近、米国産婦人科医会（ASRM）と母体胎児医学会は、「新型コロナワクチンが不妊をもたらす証拠はない」という共同声明[statement](#)を発表した。

ルー・カリガン氏が新聞投稿を行うと、グーグルとフェイスブックが、検索エンジンから新型コロナワクチンとsyncytin-1に関連した誤ったリンクを削除し、SNSにおけるそのようなメンションの削除が実行された。

しかし、その後も不妊言説はモグラたたきのようにネット上に現れ続けていると彼女は語った。

ネットニュースの信頼性を検証しているNewsGuard社の2021年の[report](#)によれば、新型コロナワクチンが不妊をもたらすという主張にはいくつかのパターンがあると述べている。

syncytin-1説に加えて、ワクチンを接種された妊婦の97%が流産したとか、精巣、前立腺が侵され、テストステロンが減ったなどの言説である。

ジョンズホプキンス保健センターのタラ・カーク・セル博士は、このような誤った情報の拡散は「人々が現在の状況に抱いている不安に付け込んで恐怖感をあおりワクチン接種を躊躇させようとする積極的なたくらみである」と述べた。

インタビューで彼女は、フェイク情報が、SNS、ブログ、ケーブルニュース、テキストメッセージチェーン、そして普通の会話を通じて拡散されていると述べた。

2021年10月にKFF（旧Kaiser Family Foundation）が1591名の成人を対象とした全米代表調査 [survey](#) によれば、新型コロナワクチンが不妊の原因となると聞いたことがある、そう思う、本当かどうかわからないなどの回答が見られたという。2022年2月の時点で、米国の妊娠女性の3分の1はワクチンを受けていない。

米国公衆衛生長官ヴィヴェック・マーティ氏は「このパンデミック中に最も広まった誤情報は、新型コロナワクチンが不妊をもたらすという言説だ。残念なことに、ワクチンを受けない人々が多数生まれた。妊婦のワクチン接種率の低さは由々しきことだ。妊娠している人々はそうでない人々よりも新型コロナの重症化率がとても高いからだ」と語った。

狡猾な戦略

[syncytin-1 rumor](#)はウイルスのようにSNSに広がり、友人や関連するブログにも拡散された。ルー・カリガン氏は、エール大学のクラスメート、友人、知人から、ワクチンで不妊になるという言説は本当かと尋ねられるようになった。

「タンパク質が関係する」という言説によって、多くの人々がうろたえた。

新型コロナウイルスのスパイク蛋白も、syncytin-1も、細胞接合の機能を持つタンパク質である。Syncytin-1は内因性レトロウイルスが産生している。このレトロウイルスは、大昔にヒトのDNAのゲノムに入り込んだウイルスを起源としている。

ルー・カリガン氏は「一般の人々は、ウイルスという名前の付くものはすべてウイルスだと思うのが普通だ。しかしウイルス学者は、新型コロナウイルスと内因性のレトロウイルスは全く別物だと理解している」と述べている。

彼女らのチームは、スパイク蛋白と胎盤syncytin-1に遺伝子の共通部分は極めて少ないことが分かっている。

プレプリントサーバーに投稿されたピアレビュー前の[study](#)によれば、イワサキ氏とルー・カリガン氏のチームは、新型コロナウイルスワクチン投与から数か月後においてもantisyncytin-1抗体レベルが増加していないことを明らかにしている。

ルー・カリガン氏は、この言説がまったく科学的根拠を持たないにもかかわらず、説明方法が巧みなだけに、本当だと信じ込ませるように作られていると述べている。

例えば、実在するsyncytin-1というヒトのタンパク質を引き合いに出していることが、真実の装いを持つ効果をもたらしているという。

「破天荒な言説に生物学的に正しいと思われる主張を混ぜ込むなら、本当だと誤解されて広がる可能性が高い。このやり方はとても狡猾だ」と彼女は語る。

NewsGuardの健康担当編集者ジョン・グレゴリー氏は、専門家と称する人々が反対意見を宣伝し、一般市民の抱いている不平不満に付け込んで、それを増幅するという新型コロナ時代のフェイクニュース拡散戦略が広く行われていると説明している。

反ワクチン運動陣営が、公式発表データを「再分析」して、自分たちに都合の良い主張の根拠とするという戦術も行われている。

政府への信頼が低い人々にとっては、そのような「データ」を知ることで、政府当局が何かを隠しているという疑いをさらに強める動機となる。

彼は、フェイク情報拡散を目論む人々がワクチン接種と妊娠に関するCDCのモニタリングデータ ([v-safe After Vaccination Health Checker](#), [v-safe COVID-19 Vaccine Pregnancy Registry](#), and [Vaccine Adverse Event Reporting System \(VAERS\)](#)) を作り替えたという事例を紹介した。

CDCの公式 analysisでは、「新型コロナmRNAワクチンを接種された妊婦において明らかな安全上の警告シグナルは見出されていない」と述べていたが、ネット上では、この発表を、新型コロナワクチン接種後82%が流産したという言説に作り替えられた。

この類のネット言説では、ファクトチェックを回避するために、上記のワクチン接種妊婦のモニタリングデータの間接発表を「利用して」フェイクニュースを作ったのである ([according to SciCheck's COVID-19/Vaccination Project](#))

(注：データ元となった情報は、ワクチン接種全妊婦のうち、出産が完了した2割弱のデータである。もちろん、流産率はバックグラウンドと差がなかった。しかし、フェイクニュース発信者は、出産が完了していない残り8割をすべて流産したと捏造した情報を発信した。詳しくは上記のリンクをご覧ください。昨年のコロナ情報210824も参考にしてください：松崎)

2021年8月にCDCはv-safe Covid-19 Vaccine Pregnancy Registry dataを発表した ([analysis](#))。それによると、ワクチン接種妊婦における年齢調整流産率は12.8%であり、ワクチン未接種妊婦のバックグラウンド流産率11～16%の範囲内だった。

CDCはこのデータを踏まえ、妊娠中、妊娠計画中、授乳中の人々に新型コロナワクチンを積極的に受けるよう勧奨した ([guidance that still stands](#))。

セル氏は、新型コロナワクチンが不妊をもたらすという言説は、反ワクチン運動勢力が繰り返し利用していると語る。彼女とグレゴリー氏は新型コロナワクチンとHPVワクチンに共通なフェイクな主張があることに注目している。

グレゴリー氏は「反HPVワクチンの主張を、文字を新型コロナに入れ替えて使いまわしている」と語る。

米国産婦人科医会会員でノースウェスタン大学産婦人科准教授エバ・C・ファインバーグ氏は、反ワクチンキャンペーンはしばしば女性の生殖機能障害をターゲットにした主張を行っている」と指摘する。

「妊娠の問題は多くの人々の共感を呼びやすいからだ」と彼女は語る。彼女のクリニックには、ワクチンで精子が減るのではないかと心配した男性も毎日のように訪れている。

医療スタッフであろうとも、根拠のないうわさにとらわれることが少なくない。

2021年3月、50か所の高齢者施設のスタッフ193名に対する調査[study](#)で、ワクチンが不妊をもたらすという言説が広まっていることが分かった。

ワクチン接種がはじめられた当初は、妊婦や授乳婦の臨床トライアルデータがなく、臨床医も、妊婦に積極的にワクチン接種を進めることが難しかった。

ニューヨークのプレスビテリアン病院の男性部門主任ジョセフ・アルカル氏は、その後1年以上が経過した現在、米国で2億人以上がワクチンを完了しているが、女性も男性も生殖機能、妊娠経過に関する懸念される副作用は報告されていないと述べた。

アルカル氏は、昨年JAMAに掲載された論文[study](#)を示して、新型コロナワクチンを受けた45名の男性の精子数、運動性などに異常は見られなかったと語った。

彼は、現在もワクチンを受けた人々を追跡しているが、妊娠率、生殖補助医療成功率、精子の数と運動性などのデータに悪化は見られないと語った。

誤った情報を正す

インターネットの時代だから、フェイク情報はすぐに世界中に広まる。WHOの新ワクチン開発担当Phionah Atuhebwe氏は、新型コロナワクチン接種が始まった直後、ワクチンが不妊をもたらすというフェイク情報がネット上に現れたという。

WHOアフリカ事務所とアフリカ・インフォデミック対応アライアンス（AIRA）は、共同で、定期的にフェイク情報を監視していると、彼は本誌に語った。

この種のフェイク情報は、インフルエンサーのSNSプラットフォームを通じて拡散されることが多い。AIRAは、2021年5月に、Viral Facts Africaを通じてワクチンと不妊言説に反論するビデオ [video](#)を公表した。

本年1月にKFFは、幅広いヘルスケアワーカーが集まり、新型コロナワクチンと妊娠の関係についての話し合いをもとに英語とスペイン語で40篇のショート [videos](#)をリリースした。

「昨夏にデルタ株の流行が始まってから、われわれは、ワクチン未接種の妊婦がERや病院のベッドで亡くなるという事実をたくさん見てきた。流産、死産、新生児への感染なども多く発生した。妊婦に緊急に正しい情報を伝える必要がある」とKFFの副代表でsocial impact media programを担当するティナ・ホーフ氏は語った。

KFFのビデオは、ワクチン未接種の黒人とラテン系の人々に正しい情報を伝える大きなプロジェクトの一環として行われている。

ニューヨーク大学医学部の産婦人科准教授レイチェル・ビジャヌエバ氏は、ワクチンを打つと不妊になるという言説が、黒人をはじめとしたマイノリティの人々が過去に、「梅毒の自然経過を見るための無治療トライアル [Tuskegee experiment](#)」や「不必要な不妊手術の強制 [that disproportionately affected African American women](#)」という非人道的な扱いを受けた歴史を想起させ、ワクチン接種も同じ種類の非人道的処置であると受け取りやすい状況を作っているのではないかと考えている。

全米医師会会長ビジャヌエバ氏は、このような歴史的背景があるために、ワクチン接種率の向上が困難となっていると述べている。

彼女は、「ワクチン接種と不妊についての誤解を正すためには、当事者の懸念がどこにあるのかをじっくりと対話して理解することが重要である。疑問を一つ一つ解決して、最終的にワクチンに関するフェイク情報全体が誤りであることを納得してもらう事。それが可能なのは、このようなフェイク情報は全く架空の物語だからだ」と語った。

最近、彼女に、ワクチンを打つと生理が乱れて不妊になるのではないかとの問い合わせが増えているという。グレゴリー氏は「ワクチン不妊言説に新たな火種が注がれた」と形容している。

新型コロナワクチン接種後一時的に月経サイクルが変化することが報告 [reported](#)されている。「それは心配する必要はない。専門家の大多数がそう考えている」とルー・カリガン氏は語った。

若い人々に、不妊言説がより大きな影響を与えていることは驚くに当たらないと、ロサンゼルスで主にラテン系住民の医療センターとして州から承認されているAltaMedの代表イラン・シャピロ氏は語った。

彼は、多くの人々が新型コロナワクチンを受けるかどうか様子を見ている最中だと語った。孫ができなくなるかもしれないからと親に言われて接種をしない若い人々もいるだろう。

当初安全かどうかのデータがなく、誤解、不信、フェイク情報の拡散の影響を受けて、ワクチン躊躇が増えたことは理解できるが、これ以上待つ必要はないと彼は述べている。「2022年の現在、人類の半数がワクチンを受けており、もはや懸念する事柄はないのだから」と。

昨年7月に、マーティ厚生長官は、新型コロナパンデミックに関するフェイク情報の氾濫についてバイデン大統領にその対策の必要性を進言した。

昨秋には、医療専門家、宗教界など多くのコミュニティの代表者に、公衆衛生上の脅威に立ち向かうための資材 [released a toolkit](#) を提供した。

シャピロ氏らは、信頼のおける医師が人々に丁寧に説明することで、フェイク情報の広がりを食い止めることができると考えている。

「ひとりひとりと向き合い、情報の読み解き方を伝え、真偽を見分け、フェイク情報を広げる手伝いをしないことが、何よりも大事だ」と。